

Title	Automorphic function ニツイテ (II)
Author(s)	有馬, 喜八郎
Citation	全国紙上数学談話会. 257 p.503-p.521
Issue Date	1943-09-25
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/75078">https://doi.org/10.18910/75078</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

1145. Automorphic function = ツイテ (II)

有馬 喜八郎 (阪大)

訂正

前章 (第二章) 1 定理 1, 証明中 下ヨリ 五行目  $\mu(Z_0) > 0$

トスト訂正, 338頁, 一行目第二型, 型ハ不変ナル故K  
ヲ-----ト故ヲ入レル. 定理2, 証明中

$$\sum_p \log \left| \frac{1 - \overline{s_p(z_0)} z}{z - s_p(z_0)} \right| \leq \sum_n \log \left| \frac{1 - \overline{z_n} z}{z - z_n} \right|$$

系6ヲ令リヤスク次, 如ク言ヒ換ヘル.

系6.

Riemann 面  $R$  ハ *geschlecht* が有界ナル開  
々 Riemann 面  $\overline{R}$  = 含マレ,  $R$  境界  $E$  ハ (勿論  $\overline{R}$  ノ内  
点ヨリナル)  $R$  = テ *Green* 函數が存在スルカ否カ = ヨリ  
*Hauptuniformisierende* = ヨリ單位円周上ノ測度  
 $2\pi$  又ハ  $0$  ナル集合 = 寫像サレル.

系7. Riemann 面  $R$  が他ノ Riemann 面  $\overline{R}$  (*ges-*  
*chlecht* ハ有限ト限ラズ) = 含マレ,  $R$  境界  $E$  ハ  $\overline{R}$  ノ  
内点トス.

$R$  上ニテ *Green* 函數が存在セザレバ *Haupt-*  
*uniformisierende* = ヨリ  $E$  ハ單位円周上ノ測度  $0$  ナ  
ル集合 = 寫像サレル.

### 第三章

コノ章ニテハ *Schottky Type* = ヨル代數函數ノ  
*Uniformisation* = ツイテ述ベタイト思ヒマス. コレハ辻

先生ノ定理<sup>(1)</sup>ノ別証デス.

(1) M. Tani: - Theory of conformal mapping of a  
multiply connected domain.

コノ擴張= ツイテハ後章= テ述ベタイト思ヒマス。

(1) *Geschlecht*  $p$  ( $p \geq 2$ ) + ル開ゲタ *Riemann* 面  $R = R_1$  ニツニ分ケ + イ  $p$  個ノ異ナル且ツ交ハラナイ *Ruckerschnitt*  $L_i$  ( $i = 1, 2, \dots, p$ ) = ヨリ生ズル面  $\bar{R}$ ノ境界ヲ  $(a_i, b_i)$  ( $i = 1, 2, \dots, p$ ) トス。

$R_1 = \bar{R}$  トシ  $R_2 = \bar{R}$ ノ  $a_i$  ( $i = 1, \dots, p$ )ノ各々ニ別 +  $\bar{R}$ ノ  $b_i$ ヲ附着シ、 $b_i = \bar{R}$ ノ別 +  $\bar{R}$ ノ  $a_i$ ヲ附着シテ  $R_2$ ヲ作ル。  $R_2$ ハ  $R_1$ ト更ニ  $2p$  個ノ  $\bar{R}$ ヨリ + リ  $2p(2p-1)$ ノ境界ヲ有ス。

$R_2$ ニ同様トコトヲ行ヒ  $R_3$ ヲ作り以下順次ニコレヲ無限ニ行フ。

一般ニ  $R_n$ ハ  $2p(2p-1)^{n-1}$  個ノ境界ヲ有シ、コノ極限トシテ得タ *Riemann* 面  $\bar{R}$ ハ  $R$ ノ *Überlagerungs-Fläche* ナル。

$\bar{R}$ ハ *Schlichtartig* + 面ナル故 *Koebe*ノ定理ニヨリ  $Z$  平面ノ *Schlicht* + 領域  $D$ ニ寫像サレル。但シ  $R_1$ ノ一点  $O$ カ  $Z$  平面ノ無限点ニ對應スルモ、トス。

然ルトキ  $D$ ノ境界  $E$ ハ完全閉集合 (*discret*) ナルコトハ容易ニ分リマス。

問題ハ  $E$ ノ *Capacity*  $0$ ナルコトヲ証明スルコトヲス。  $\bar{R}$ ヲ構成スルーツノ  $\bar{R}$ ヲ地、 $\bar{R} = S$ トニヨリ  $\bar{R}$ ヲ自分自身ニ移ス変換カ得ラレ、コレニ對シ  $Z$  平面ニテハ  $D$ ヲ自分自身ニ移ス変換  $Z' = S(Z)$

が得られマス。

カ、ル  $S(Z)$  の全体ヲ考へレバコレハ明ラカニ一ツノ群  $G$  ヲ作りマス。

$S(Z)$  ハ *Koebe*, *Caruanti* 等ニヨリ知ラレテキル如ク一次変換トナリマス。辻先生ノ指適サレタ如ク  $E$  ノ *Capacity* が 0 ナルコトヨリ  $S(Z)$  ノ一次分數式ナルコトが出テ來マス。以下ニ於テハ  $S(Z)$  ノ一次分數式ナルコトハ利用セズ  $E$  ノ *Capacity* 0 ヲ証明シソノ結果トシテ  $S(Z)$  ノ一次分數式ナルコトヲ示シマス。

$S(Z)$  ノ代リ一般ニ  $S_p(Z)$  [ $p = 0, 1, 2, \dots$ ] ヲ用ヒマス。

(2)  $R_p$  ノ境界ニハ  $Z$  平面ニテ  $2p$  個一般ニ  $R_n$  ニハ  $2p(2p-1)^{n-1}$  個ノ閉曲線カ對應シ、 $R_n$  ノ境界ニ對應スル閉曲線ノ全体ヲ  $\Gamma_n$  トス。

又  $R_n$  = 對應スル  $Z$  平面ノ領域ヲ  $\sigma_n$  トス。

原点ハ  $\sigma_1$  ノ内点トシテ一般性ヲ失ハズ。

$\sigma_1$  ハ  $2p$  個ノ閉曲線ヲ境界サレタ無限点ヲ内点トスル領域ヲ  $2p$  個ノ境界ハニツツツ適當ニ  $S_p(Z)$  ニヨリ変換サレル。

原点ヲ中心トシ  $\sigma_1$  = 含マレル円ヲ  $C_i$  トシソノ半径ヲ  $r_i$  トス。

$$(r_1 > r_2 > \dots > r_n \rightarrow 0 \text{ トス})$$

$C_i$  ノ円板ヲ  $K_i$  ニテ表ハスコトニス。

$C_i = S_p(Z)$  を施シテ得々開曲線  $C_i^p$  トス。

$\sigma_n$  より  $\sigma_n =$  含マレル  $C_i^p$  の内部ヲ除イテ出来タ領域ヲ  $D_n^i$  トス。

$D_n^i$  の内点ヲ  $Z_0$  トシ,  $Z_0$  ヲ Pole  $= \infty$  ヲ  $D_n^i$  内 Green 函数ヲ  $g_n^i(Z, Z_0)$  トス。然ルトキ

$$g_n^i(Z, Z_0) < g_{n+1}^i(Z, Z_0)$$

$K_i$  ヲ全平面ヨリ除イタ領域  $=$  於テ  $Z_0$  ヲ Pole  $=$  有スル Green 函数ヲ  $g(Z, Z_0)$  トス。

$$g(Z, Z_0) > g_n^i(Z, Z_0)$$

故ニ Harnack の定理ニヨリ  $n \rightarrow \infty$  ノトキ  $g_n^i(Z, Z_0)$

ハ  $Z_0$  ヲ除キ調和ノ函数  $g^i(Z, Z_0) =$  一様收斂ス。

Green - Gauss の公式ニヨリ

$$\sum_p \int_{C_i^p} \frac{\partial g_\lambda^i(Z, Z_0)}{\partial n} ds < 2\pi \quad (\lambda > n)$$

但シ  $\sum_p$  ハ  $D_n^i$  の境界ヲトス  $C_i^p$  ,  $p =$  ツイテトル  $\in$  , トス。

$\lambda \rightarrow \infty$  ノトキ  $g_\lambda^i(Z, Z_0)$  ハ  $g^i(Z, Z_0) =$  一様ニ收斂スル故

$$\sum_p \int_{C_i^p} \frac{\partial g^i(Z, Z_0)}{\partial n} ds < 2\pi$$

$C_i^p$  ハ  $S_{-p}(Z) = \tau C_i =$  移ル故

$$\sum_p \int_{C_i^p} \frac{\partial g^i(Z, Z_0)}{\partial n} ds = \sum_p \int_{C_i} \frac{\partial g^i(Z, S_{-p}(Z_0))}{\partial n} ds$$

但し  $S_{-p}(z)$  は  $S_p(z)$  の逆変換ヲ示スモノトス。

$$\therefore \sum_p \int_{C_i} \frac{\partial g^i(z, S_{-p}(z_0))}{\partial n} ds < 2\pi$$

$$\sum_p g^i(z, S_{-p}(z_0)) = G_n^i(z, z_0) \text{ トス。}$$

$\sum_p$  は前ト同様ノ意味トス。即チ  $D_n^i$  ノ境界  $C_i^p$  ,  $p = \text{ツイ}$  テトルモノトス。

然ルトキ

$$\int_{C_i} \frac{\partial G_n^i(z, z_0)}{\partial n} ds < 2\pi$$

$i > 1$  トシ  $C_1$  上ニ  $0$  ,  $C_i$  上ニ  $1$  ヲトリ,  $C_1, C_i$  ノ作ル環  
ノ中ニ調和ノ函数ヲ  $v(z)$  トスレバ

$$\int_{C_1} G_n^i(z, z_0) \frac{\partial v(z)}{\partial n} ds = \int_{C_i} \frac{\partial G_n^i(z, z_0)}{\partial n} ds < 2\pi$$

$C_1$  上ニ長さ  $L$  , 周上ニ  $\frac{\partial v(z)}{\partial n} > q > 0$  ( $q$  は任意ニ固定  
シタ常数) トシ  $G_n^i(z, z_0)$  ノ  $C_1$  上ノ最小値ヲ  $G_n^i$  トスレ  
バ

$$G_n^i < \frac{2\pi}{Lq}$$

Harnack ノ定理ニヨリ  $0 < \epsilon < 1$  ナル常数  $\epsilon$  ガ定マ  
リ  $C_1$  ノ周上ニ

$$G_n^i(z, z_0) < \frac{1}{R} G_n^i$$

$$\therefore G_n^i(z, z_0) < \frac{2\pi}{RLq}$$

又, 明ラカ =

$$G_n^i(z, z_0) < G_{n+1}^i(z, z_0)$$

上, 式ヨリ *Idarnack* 定理 = ヨリ  $n \rightarrow \infty$  , トキ

$G_n^i(z, z_0) \wedge S_{-p}(z_0) \rightarrow$  除キ調和ナ函数  $G^i(z, z_0) =$  一樣收歛ス。

$$G^i(z, z_0) = \sum_p g^i(z, S_{-p}(z_0)) \quad \left( \begin{array}{l} \sum_p \text{ハスベテ } p= \\ \text{ツキトルモノトス} \end{array} \right)$$

$S_p(z)$  ハ群  $G$  ナ作ル故

$$= \sum g^i(z, S_p(z_0))$$

$S(z)$  ハ  $G$  ノ一ツノ元素トスレバ

$$G^i(z, S(z_0)) = \sum g^i(z, S_p S(z_0))$$

群ノ性質 = ヨリ

$$= \sum g^i(z, S_p(z_0))$$

$$= G^i(z, z_0)$$

故 =  $G^i(z, z_0)$  ハ  $G$  Automorphic function

ナリ  $z =$  ツイテモ同様ナコト可言ヘル。

$D_n^i =$  於テスベテノ  $C_i^p =$  於テハ / ,  $\Gamma_n$  上デ0ナル調和函数ヲ  $W_n^i(z)$  トスレバ

$$0 \leq W_n^i(z) \leq 1, \quad W_n^i(z) \leq W_{n+1}^i(z)$$

故 =  $n \rightarrow \infty$  , トキ  $\lim W_n^i(z) \equiv 1$  トナルカアル調和函数  $W^i(z) =$  一樣收歛ス。

一章ノ時ト同様 = シテ

$$W^i(z) = \frac{1}{2\pi} \int_{C_i} \frac{\partial G^i(z, z)}{\partial n} d\sigma$$



$G^i(\zeta, z)$  は  $z = \zeta$  とき  $G$ , Automorphic function  
 となる故  $w^i(z) \in \text{亦然}$ 。

(3) 集合  $M$  の Capacity  $C(M)$  を表はすもの  
 として。

$I_p$  の一ツの開曲線  $A_i$  ( $i = 1, 2, \dots, p$ ) の内部を含む  
 ような  $E$  の部分集合  $E_i$  として  $E_i$  は完全開集合 (dis-  
 cret) である

$$E = \sum_{i=1}^{2p} E_i$$

以下  $C(E) > 0$  として。

然るに  $C(E_i) > 0$  となる集合  $E_i$  が少くとも一ツ存在  
 する、然るに  $E_i$  へ適當な変換  $S_p(z) = \zeta_j$  ( $i \neq j$ )  
 の部分集合へ変換される故

$$C(E_j) > 0 \quad (i \neq j)$$

結局 すべての  $i$  ( $i = 1, \dots, 2p$ ) に対して

$$C(E_i) > 0$$

以下に於て  $E_1, E_2$  を一ツの特例を考へる。

先づ  $\lim w^i(z) \equiv 1$  の成立を證するコトを証明シマ  
 する。

$E_j$  上  $C_i^p$  (すべての  $p$  につき) の内部を除いた領域を  
 $D_j^i$  とする。但し  $j = 1, 2$

$z_0$  が Pole = である  $D_j^i$  の Green 函数  $g_j^i(z, z_0)$  とする。

$\lim_{n \rightarrow \infty} w_n^i(z) \equiv 1$  + ルトキ次、補助定理が成立ス。

補助定理  $E$  ト  $C_i^p$  (スベテ、 $p = \infty$ ) ヲ除イ  
 $\times$  無限点ヲ含ム領域  $D$  デ  $\nabla(z)$  ハ調和且ツ有界、 $C_i^p$ 、  
 境界上デ  $\nabla(z) \geq 0$  + ラバ  $D$  ノ内部デ  $\nabla(z) \geq 0$

証明.  $|\nabla(z)| \leq M$  トス。

$D_n^i =$  於テ  $g(z) = \frac{\nabla(z) + M}{M} - w_n^i(z)$  ヲ考ヘル。

$D_n^i, C_i^p$ 、境界上デ  $\frac{\nabla(z) + M}{M} \geq 1, w_n^i(z) = 1 \therefore g(z) \geq 0$

$\Gamma_n$  上デ  $\frac{\nabla(z) + M}{M} \geq 0, w_n^i(z) = 0 \therefore g(z) \geq 0$

故ニ  $D_n^i$  内デ  $g(z) \geq 0$

$$\therefore \frac{\nabla(z) + M}{M} \geq w_n^i(z)$$

上式ハ  $n$  ノ如何ニ關セズ成立スル故ニ  $n \rightarrow \infty$  ト + フシム  
 レバ

$$\lim w_n^i(z) \equiv 1$$

+ ルコトニ注意シ

$$\frac{\nabla(z) + M}{M} \geq 1 \quad \therefore \nabla(z) \geq 0$$

—— (証明終) ——

今  $\lim w_n^i(z) \equiv 1$  トス。然ルト +  $g_1^i(z, z_0) - g_2^i(z, z_0)$  ハ上ノ補助定理ノ假設ヲ満足ス。



$$g_1(z, z_0) = g_2(z, z_0)$$

コレハ明カニ不合理ナリ。

故ニ  $C(E) > 0 \Rightarrow \lim W_n^i(z) \equiv 1$  ナルコトナシ。

故ニ  $C(E) > 0$  ナラバ  $W^i(z)$  ナル調和函数カ存シ。

コレハ群  $G =$  對シ *Automorphic function* ナル故

モトノ *Riemann* 面  $R =$  移ッテ考ヘルト  $C_i =$  ハ  $R$  上

デ開カタ  $R$  上ニテ單一連結領域ヲ囲ム曲線  $d_i$  カ對應ス：

然ルトキ  $W^i(z)$  ハ  $d_i$  上デ  $1$ 、 $R$  ヨリ  $d_i$  ノ内部ヲ除  
イタ部分デ調和且ツ  $0 \leq W^i(z) \leq 1$  トナリコレ明カニ不  
合理ナリ。

$$\therefore C(E) = 0$$

(注意)  $W^i(z)$  ノ存在セザルコトハ  $D$  ノ *Universal  
Covering Surface* ヲ作り單位円ニ移シソレニ附屬ス  
ル群ト  $S_p(z)$  トヲ結合スルトキ第一型ノフックス群カ得ラ  
レル故ニ第一章ノコトヨリ  $W^i(z)$  ノ存在セザルコトカ結論  
ナレル。

$S_p(z)$  ハ  $E$  ヲ除キ全平面デ唯一ツ一位ノ極ヲ有シ。  
單葉ノ函数ナリ。

從ッテ  $C(E) = 0$  ナル故  $E$  ハ正則点又ハ *Pole* トナル  
然ルニ  $S_p(z)$  ハ唯一ツノ極ノミヲ有スル正則点トナリ、  
コレヨリ  $S(z)$  ハ一次分數式ナルコトガ分ル。

故ニ *Ruckerschnitt Theorem* ハ証明サレル。

(4) Schottky Type 1 群, limit point, 集合ニツイテ前述ノ  $S(z)$  が loxodromique 又ハ Hyperbolique ナ一次変換トナリソノマヽ、理論ヲ適用シ次ノ定理カ得ラレル。

定理. Schottky Type 1 群, limit point ノ集合ヲ  $E$  トスレバ  $C(E) = 0$  ナリ。

証明 基本領域 (無限点ヲ内点ニ含ムモ、ヲ取ル) ノ境界ハ  $S(z)$  ヲ適當ニトレバニツヅツ、ツイヲナシ交換サレル、コノツイヲナス境界ヲ附着シテ Ideal Riemann Surface ヲ作ル。基本領域、境界、数ヲ  $2p$  トスレバ geschlecht  $p$  ナル閉カタ Riemann Surface カ出来ル。故ニ上ノ理論ヨリ  $C(E) = 0$  ナルコトヲ知ル。

注意 Ideal Riemann Surface ヲ作ル代リニ Poincare, theta 級数ヲ利用シニツ、異ナル Auto-morphic function  $x(z), y(z)$  ヲ作レバ  $x(z), y(z)$  ヨリ geschlecht  $p$  ナル代数曲線  $f(x, y) = 0$  ヲ得コレヲ用ヒテ可ナリ。

注意 (I) geschlecht  $p=1$  ノトキハ 群, limit point ハ Hyperbolique 又ハ loxodromique transformation ノ固定点ヲ唯一ニ含ム、ミヨリナル故勿論  $C(E) = 0$

$p=0$  ノトキハ limit point ハ存在セズ。

注意 II. Rückerschnitt, 外 = 欠, 如 + cut 无  
 上ル下モ, トス。

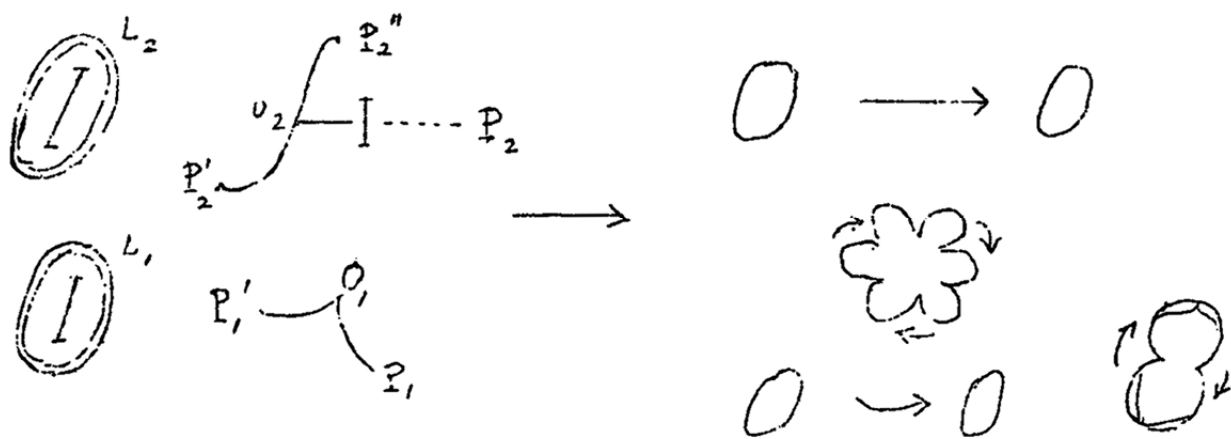
Riemann 面上, Rückerschnitt 上 = + 1 知  $O_i$   
 カヲ  $P_i, P_i'$  又ハ  $P_i, P_i', P_i''$  へ cut ヲ作り, 前者ノト  
 キハ  $\nu_i = \nu_i'$

後者ノトキハ 
$$\frac{1}{\nu_i} + \frac{1}{\nu_i'} + \frac{1}{\nu_i''} > 1$$

ナル整数ヲ對應セシメ  $(\nu_i, 1), (\nu_i', 1), (\nu_i'', 1)$  ノ對キ對  
 應ヲトサレムルトキモ Capacity 0 ナルコトヲ知ル。ノ  
 ハ  $\infty$  ナルモ可。

例ヲ示セバ (Ford automorphic function  
 p. 278 参照)

$p = 2$  ノトキ



(5)  $m$  個ノ境界ヲ有スル Schlichtartig + リー  
 マン面ハ  $m$  個ノ円ニテ境界サレタ, 適當ノ領域ニ寫像出來  
 ルカ,

コノ問題ハ Koebe, Courant ニヨリテ解決サレタ

問題が上ノ結果カラモ解決サレマス。辻先生ノ論文ヲ  
参照シテ下サ。  $m$  個ノ Rand ヲ有フル Schlichtartig  
+ 面ハ  $m$  個ノ  $u$  軸 = 平行 + 切断線ヲ入レタ Schlicht  
+  $W$  平面 = 寫像サレマス。(2)

但シ  $W = u + iv$ .

故 = 問題ヲ次ノ如ク直シテ考ヘマス。

$m$  個ノ  $u$  軸 = 平行 + 切断線ヲ有フル  $W$  平面ノ領域ヲ  
或  $m$  個ノ円 = 境界サレタ  $z$  平面 = 一對一 = 寫像セヨト云  
フ問題トナリコノ形ヲ考ヘマス。

$W$  平面ノ切断線ハ何レモ点 = ナラナイモノトス。

$m$  個ノ切断線ヲ  $S_1, S_2, \dots, S_m$  トシ、コノ切断線  
ノハイツタ  $W$  平面ヲ  $R$  トス。先ヅ  $R = R_1$  トス。  $R_1$  ノ  $S_i$   
( $i = 1, 2, \dots, m$ ) = 於テ  $R$  ノ  $S_i$  = 関スル對稱面ヲ作  
リ  $R_1$  ノ  $S_i$  = 交錯シテ  $R$  ヲ附着セシメテ出来タ面ヲ  $R_2$  ト  
ス。  $R_2$  ハ  $m(m-1)$  個ノ切断線ヲ有ス。コノ切断線 = 同  
様ナコトヲ行ヒ  $R_3$  ヲ得。以下順次同様ノコトヲ無限ニ行  
フトキ極限トシテ得ラレタ面ヲ  $\bar{R}$  トス。一般ニ  $R_n$  ハ  $m(m-1)^{n-1}$  個ノ切断線ヲ有ス。

$\bar{R}$  ハ Schlichtartig + 面ナル故ノ Koebeノ定理 =  
ヨリ  $\bar{R}$  ハ  $z$  平面ノ領域 (Schlicht +)  $D$  = 寫像サレ  
ル。

$D$  ノ境界点ヲ  $E$  トスレバ  $C(E) = 0$  ナルコトヲ証明ス。

(2) 辻先生 複素函数論参照。

但シ  $R_1$  一点  $O$  を  $Z$  平面、 $\infty$  点 = 移スモノトス。  
 $\bar{R}$  を構成スル  $R_1$  デコレ = 附着スル他、 $R$  = 移スコト = ヨリ  
 $\bar{R}$  を自分自身 = 移ス変換が得ラレル、コレ = 對シ  $Z$  平面  
 = テハ  $D$  をソレ自身 = 移ス変換が得ラレル。コノトキ前  
 の  $S(z)$  ト異ナリ角ノ向キが相反スル変換トナル。

$$\bar{z}' = S(z)$$

$\bar{z}'$  ハ  $z'$  ノ共軛數ヲ表ハス。

コレハ問題ノ附着シテキル切断線 = 對應スル像ノ各点  
 を不変ナラシメル。

カナル変換ヲ  $\bar{R}$  ノ各  $S_i$  ニツイテ考フレバ  $m$  個ノ変  
 換が得ラレル。カナル  $m$  個ノ変換ヲ生成元トシテ出来タ群  
 を  $\bar{G}$  トス。

$\bar{G}$  ノ内テ角ノ向キヲカヘルモノヲ  $\bar{G}$ 、角ノ向キヲ変ヘ  
 ナイモノヲ  $G'$  トスレバ

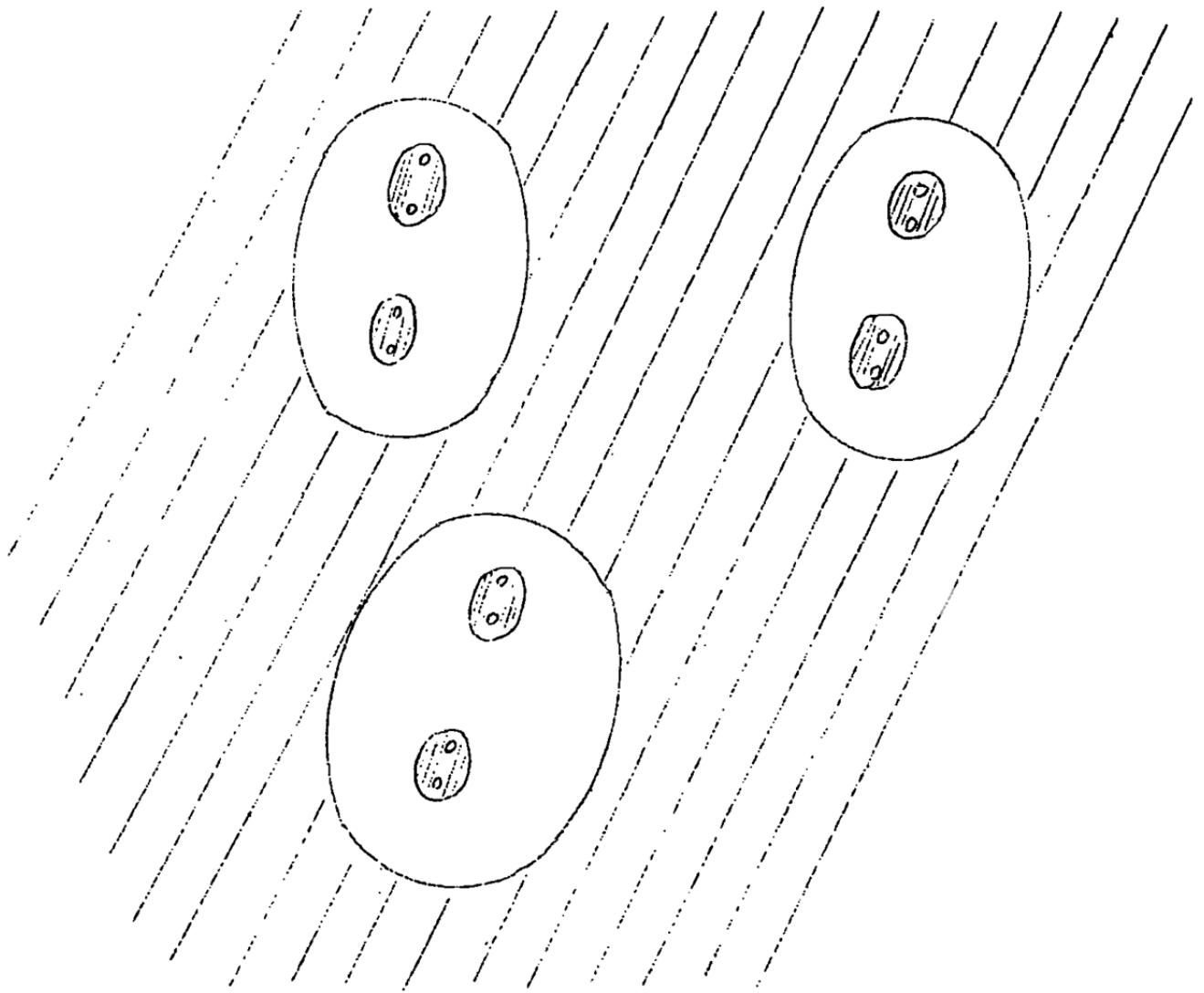
$$\bar{G} = G + \bar{G}$$

然ルトキ  $G$  ハソレ自身 = テ群ヲ作ル。

$R_n = \text{ハ } m(m-1)^{n-1} \text{ 個ノ境界ヲ有スル } Z \text{ 平面ノ領}$   
 域が得ラレル。コレヲ  $\sigma_n$  トス。参考ノヌメ =  $Z$  平面ノ圖  
 形ヲ示ス。

下圖 = 於テハ  $m=3, n=2$  マデノ  $Z$  平面ノ領域ヲ  
 示ス。





外側、陰影ノ部分ハ  $R_1$  = 對應スル  $\sigma_1$

コノ陰影ノ部分ト次ノ無地ノ部分ヲ併セテ  $\sigma_2$

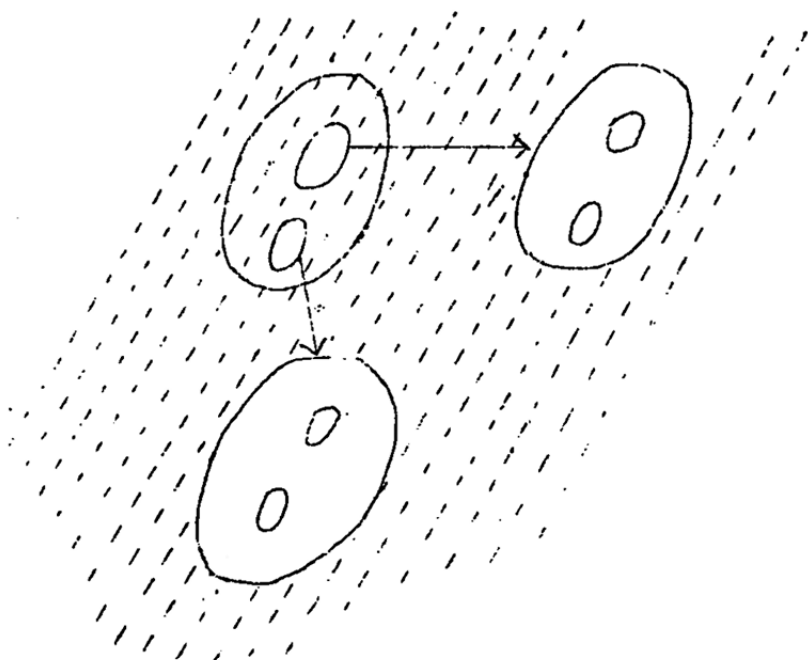
コレニ更ニ次ノ陰影ノ部分ヲ併合シテ  $\sigma_3$  トナル。

次ニ  $R_1$  ト  $R_2$  = 附着スルーツノ  $R$  トヨリタルーツノ  
面ニ對應スルニ平面ノ領域ヲ考ヘル。コレヲ  $\sigma$  トス。

次ノ圖ニ於テ上ノ場合ヲ示スト外側ノ陰影ノ部分ガ  
ヲ示ス。

$\sigma$  ハ  $2(m-1)$  個ノ境界ヲ有ス。

コノ境界ノ  $2(m-1)$  個ハニツヅツ ツイヲナシ  $G$  ノ適當



+ 変換  $z' = S(z)$   
 = ヨリ 互に変換サ  
 レル。

コノ  $\sigma$  前ノ  $\sigma$  ト  
 考ヘテ同様ノ議論  
 フ群  $G$  = ツイチ行  
 フ。

コノ トキ  $\sigma$ ,  $2(m-1)$

ノ境界 = テ 互 = 変換サレル境界ヲ附着シテ Ideale Rie-  
 mann Fläche フ作ルト閉曲面  $geschlecht(m-1)$   
 ノ面ガ出来ル。従ッテソノママ前ノ理論 = ヨリ

$$C(E) = 0$$

ナルコトヲ知ル。

コレヨリ  $\bar{z}' = S(z)$  ノ前ト同シ理由 = ヨリ

$$\bar{z}' = \frac{c\bar{z} + d}{a\bar{z} + b}$$

ナル変換トナル。

$R_i$  ,  $S_i$  = 對應スル  $\sigma_i$  ノ境界ヲ  $S'_i$  トスレバ

$$\bar{z}' = \frac{c_1\bar{z} + d_1}{a_1\bar{z} + b_1}$$

ナル変換 = ヨリ  $S'_i$  上ノ各点ハ不変トナル。

$S'_i$  上ノ任意ノ三點  $z_1, z_2, z_3$  フトリコノ三點ヲ通  
 ル円ヲ作り, コノ円 = 關スル inversion  $\bar{z}' = T(z)$  フ

作ル。  $T(z)$  は  $Z$  = 関スル 或ル 一次分数式ヲ表ハスモノトス。

コレト前ノ変換トヲ結合スルト  $Z_1, Z_2, Z_3$  ヲ不変点トスル 一次変換トナル故ニ コノ変換ハ恒等変換トナル。

故ニ  $\bar{Z}' = \frac{c_1 Z + d_1}{a_1 Z + b_1}$  ハ  $Z_1, Z_2, Z_3$  ヲ通ル 円ノ inversion トナル。

従ツテ  $S'_1$  ハ コノ inversion = ヨリ 不変ナル故  $S'_1$  ハ 円トナル。 他ノ  $S'_i$  = ツイテモ同様デアル。

故ニ  $R_1$  ハ  $m$  個ノ 円ニテ境界サレタ領域  $\sigma_1$  = 寫像サレタ譯デアイル。

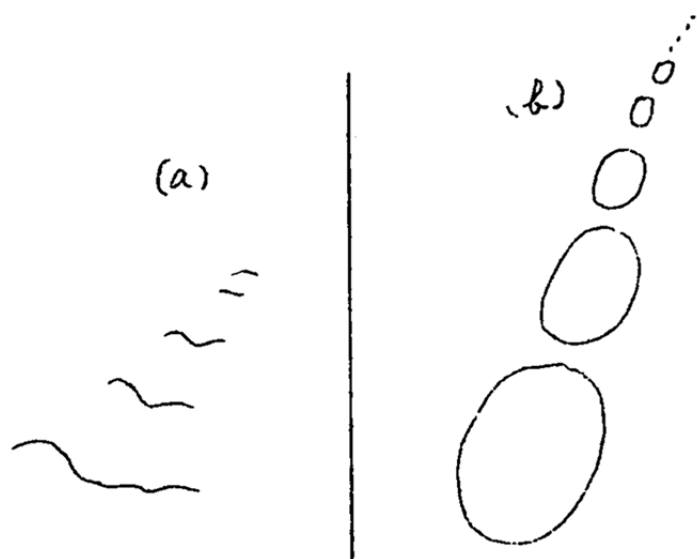
注意 I. カコル変換ガ二通リアルトスレバ、コレハ一次変換ヲ除イテ一致スルコトヲ証明出来マス。コレニハニツノ對應スル  $E_j$  ( $j = 1, 2$ ) ヲ考ヘルトキ  $C(E_j) = 0$  ナルコトヨリ結論サレマス、コレニツイテハ辻先生ノ論文ヲ参照シテ下サイ。

注意 II. 辻先生ヨリ Koebe ノ未解決ノ問題ニツイテ話カアリマシタ。

ソレハ (a) 圖ノ如ク (Z)

平面上 = continuum ノ集合ガアリ、ソノ集積点ガ可附番個トス。

然ルトキ (a) ハ (b) ノ如ク 円ノミニテ境界サレ



タ領域 = 寫像サレルカ。ト云フ問題デス。

辻先生ハ可附番個ヲ *Capacity 0* = オキカヘテ可能  
カト云フ問題ヲ出サレマシタ。コレ = ツイテ出来タラ 後報  
= ノセタイト思ヒマス。

次報 = テハ *Schottky Type* ノ問題ヲ開イタ *Rie-*  
*mann* 面ノ場合ヘノ擴張トフックソイド群 (第三種) ,  
*limit Point* ノ集合 = ツイテ報告シタイト思ヒマス。

— (續 7) —